

# ペット動物を対象とした室内化学物質の測定

**本技術の実用化を目指して、共同研究・技術移転のパートナーをさがしています。**

## 背景

ネコはペット動物として身近な動物であり、ヒトに安らぎや癒しをもたらす動物として家庭に迎え入れられている。しかし、ネコは飼育環境により様々な化学物質を体内に取り込むことが知られている。一例として、家電製品や家具に含まれる難燃剤PBDEs (polybrominated diphenyl ethers)が挙げられ、ネコの体内に高蓄積することで甲状腺機能亢進症を引き起こすのではないかと懸念されている。

本研究はネコの有機物暴露量と健康状態とを測定/評価し、化学物質代謝能をモニタリングすることで、ネコの健康状態を良好に保つ飼育環境を提案するものである。

## 本研究のポイント

### ①ネコの体内に体積した化学物質の測定

獣医学部と連携し、血液サンプルを分析。飼い主から住環境のヒアリングを行い、ネコの健康状態と住環境との関連性を調査。

### ② 乳幼児への応用期待

本研究データの活用により、乳幼児が暴露する有機化合物量(ホコリ・塗装・家電などに由来)を評価できる可能性がある。



Fig.1 室内におけるペットの化学物質暴露経路

## 企業様に求めるポイント

- ・住環境中に含まれる有機物などを測定するためのセンサー開発。(首輪のような形状が理想)

## その他の研究

- ・ペットフード中に含まれる化学物質がもたらすペット動物の長期的健康リスクについて
- ・殺虫剤・抗菌剤がペット動物に与える影響について

## 研究者

研究者：愛媛大学大学院  
農学研究科生物環境学専攻  
水川 葉月 准教授

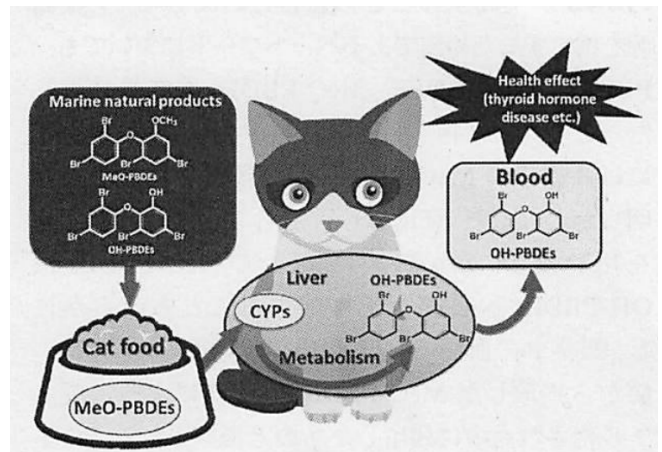


Fig.2 ネコに取り込まれたOH-PBDEsおよびMeO-PBDEsの挙動